

# 令和5年度 学校評価報告

草加市立松原小学校  
(令和6年1月31日作成)

<b>1 学校教育目標</b>	
心身ともに健康で自ら学ぶ子 ～やさしさと 笑顔でつなぐ 松原っ子～ ① 教職員が一体となって、学校教育目標の具現化に努め、新学習指導要領の理念である「生きる力」をはぐくむ教育を推進する。 ② 教職員相互の磨き合いを深め、資質と指導力の向上に努める。 ③ 「時を守り、場を淨め、礼を正す」教育を推進し、凡事徹底・常態のレベルアップに努める。 ④ 安全で落ち着きと潤いのある教育環境の維持・管理に努める。 ⑤ 地域との交流を深め、地域に信頼される開かれた学校づくりを推進する。	
<b>2 重点目標・努力目標</b>	<b>3 前年度の成果と課題</b>
○確かな学力をつける学習指導の充実 ・児童が主体的に取り組む「一授業一工夫」 ○学年・学級経営の充実 ・児童一人一人が自己有用感を実感することのできる学年・学級経営 ○心身ともに健康な体づくりの推進 ・基本的な生活習慣の確立	成果 ○各種学力・学習状況調査において、算数科を中心に、学力の伸びが見られる児童が増えた。 ○栄中学校区で共通理解を徹底し、自校のスタンダードに基づいた学習指導を徹底することができた。 課題 ●文章で書くことや言葉で表現することの指導について工夫・改善が必要である。ICTも効果的に活用しながら文章構成力を高めてきたい。

<b>4 評価表</b> ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○各主任が中心となり、建設的な意見交流をしながらボトムアップで立案や運営・実施を行うことができた。 ●各主任には、人を動かすノウハウを身に付け、人材を活用する力を育成したい。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○友達との交流を通し、他人の考えと比較しながら自分の考えを深め、課題を解決することのできる児童を育成することができた。 ●学習のめあてを明確にし、児童が毎時間、課題に正対したまとめと振り返りが確実にできるよう、課題解決型学習の進め方について研修を深めていく。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○養護教諭が管理職に報告・連絡・相談を速やかに行うことにより、大きな事故やけががなかった。 ○定期安全点検の実施により、施設・設備の事故がなく、児童が安心・安全に学校生活を送ることができた。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○管理職や事務主幹等、複数の目で定期的に諸表簿の確認を行うことにより、正しく管理することができ、事故もなかった。 ○年間20回以上の倫理確立委員会の実施により、教職員が危機管理について意識を高くし、施設管理の杜撰さがなくなってきた。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○学校ホームページの毎日の更新、学校運営協議会や地域・保護者ボランティアとの協働や情報交換により、教育活動への理解を得ることができた。 ●コロナ禍以前の教育活動に戻りつつあり、外部の方をお招きすることが増えてきた。次年度はさらに児童と共にできる活動を企画していきたい。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○連絡協議会を通して、中学校区で共通理解・共通認識を深める研究を進めることができた。中学校区共通の学習・生活のルール等を作成、実践することができた。 ●次年度に向けて、さらに3校で共通して取り組めるものを検討していきたい。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>15年間を通じたカリキュラムの編成、実施</li> <li>教育計画の作成</li> <li>教育活動の評価</li> <li>目標、方針の周知</li> <li>授業時数の配当、確保</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月、授業時数や履修内容を確認することにより、指導計画に基づきほぼ確実に実施することができた。</li> <li>●学年や学級により授業の進捗状況に差が出てしまうこともあるため、よりこまめに確認を行い、指導の遅れがないようにしていく。</li> </ul>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>外部人材の活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師が互いに授業を見合うことで指導技術を共有することができ、授業改善を行うことができた。</li> <li>●45分間の時間配分をしっかりと考え、まとめと振り返りまで確実にこなせるようにしたい。</li> </ul>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の作成</li> <li>各教科との関連</li> <li>道徳的実践力の育成</li> <li>家庭、地域社会との連携</li> <li>いのちの教育の推進</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業のスタンダードを作成し、1時間の授業の流れを確立することにより、授業改善を行うことができた。</li> <li>●全学級が同じように児童に道徳的実践力を育成できるような授業ができるよう、校内研修等でも深めていく。</li> </ul>
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>各教科、道徳教育との関連</li> <li>中学校との連携</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童とALTとが良好な人間関係を築き、表現力を培う授業を行うことができた。</li> <li>●学級担任がもっとALTとコミュニケーションを取り、積極的に指導できるようにしていく。</li> </ul>
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>学級活動、学級経営</li> <li>学校行事</li> <li>児童会活動</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○少しずつコロナ禍以前の教育活動に戻り、行事や児童会活動で児童の活躍の場が増えてきた。</li> <li>○委員会活動では児童の活動の場を保障し、自己有用感を味わわせることができた。</li> </ul>
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価の工夫</li> <li>地域の人材・物的資源の活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年の指導計画に基づき、他教科と関連させながら指導を行うことができた。</li> <li>●調べ学習でまとめたことを発表するという授業になりがちであるため、体験等も取り入れ、新たな取組ができるよう、指導計画を検討していく。</li> </ul>
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的な生徒指導</li> <li>問題行動への対処</li> <li>教育相談、児童理解</li> <li>いじめ防止対策</li> <li>保護者、地域、諸機関との連携</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒指導主任を中心に、様々な児童のトラブルや問題行動に管理職をはじめとする組織で速やかに対応することができた。</li> <li>○いじめ防止対策委員会は定期的なものと緊急時のものと臨機応変に開催し、学校全体で共通理解のもと指導にあたることができた。</li> </ul>
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>中学校との連携</li> <li>啓発的経験の充実</li> <li>家庭、地域との連携強化</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリア・パスポートを活用し、家庭や地域と連携することにより、将来の自分への期待を持たせることができた。</li> <li>●地域の活動に参加できる児童を増やすため、様々な教科と関連付けて指導していきたい。</li> </ul>
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画、支援計画</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>通常学級との交流</li> <li>諸機関との連携</li> <li>校内支援体制の整備</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別の指導計画をもとに、家庭と連携しながら個々の障害や課題に合わせた、きめ細やかな指導を行うことができた。</li> <li>○校内就学支援委員会を定期的に行い、就学相談・教育相談を丁寧に進めることができた。弾力的運用により、通常学級と特別支援学級とで交流学習を進めることもできた。</li> </ul>
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画、支援計画の作成</li> <li>図書館補助員の活用</li> <li>諸機関との連携</li> <li>図書館の整備</li> <li>図書館利用の工夫</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域ボランティア（はなぐり物語）や中学生の読み聞かせ等により、本に興味をもち、学校図書館を利用する児童が増えた。</li> <li>○全学級が週1時間以上の学校図書館活用の時間を設けることにより、児童の読書量が増えた。</li> </ul>
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育計画の作成</li> <li>校内研修の充実</li> <li>ICT機器の積極的な活用</li> <li>情報モラル教育の推進</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報教育主任が講師となり教職員研修を行った。これによりICTに苦手意識をもつ教員も授業や行事で積極的にICT機器を活用することができた。</li> <li>●授業内で児童にタブレット端末を使用させる頻度については学級により差があるため、授業での効果的な活用の仕方を検討したい。</li> </ul>
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の策定</li> <li>各教科との関連</li> <li>人権感覚の育成</li> <li>校内研修の充実</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人権週間を設定し「人権感覚育成プログラム」を活用した指導を全学級で行った。児童の人権意識が高まった。</li> <li>●これまでの人権教育に加え、性の多様性、災害時における人権、ヤングケアラー等、さらに幅広く指導をしていくことができるようにする。</li> </ul>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	① 常態のレベルアップと校風を大切にしている学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつでも、どこでも元気よくあいさつを交わし合う学校</li> <li>・俳句作りにより、自然や人との関わりを実感することのできる学校</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童会が主体となり、年間を通してあいさつ運動を実施し、あいさつの大切さが定着している。また、中学生との合同あいさつ運動の実施により、中学生をお手本としたよいあいさつができるようになった。</li> <li>○毎月児童の俳句を学校だよりで紹介し、昇降口前に掲示することにより、児童が自然や季節を感じ、言葉で表現することができた。</li> <li>●登校時、明るく元気なあいさつができない児童がいる。高学年児童が手本となり、全校に元気なあいさつが広がるよう指導をしていきたい。</li> </ul>
	② 保護者、地域に信頼される学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・スクールの活用</li> <li>・地域交流の充実と強化</li> <li>・学校教育活動の情報発信</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校ホームページに日々の児童の活動の様子をアップすることにより、閲覧数が向上した。また、地域の方や就学予定児童保護者にも閲覧してもらうことができた。</li> <li>●コロナ禍以前の教育活動に少しずつ戻ってきているため、もっと地域の方との交流が増やせるよう活動内容や活動方法を検討し、実現していく。</li> </ul>
	③ 学力・体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力・学習状況調査の結果分析による学習指導の充実</li> <li>・体力向上の実現</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の「学力向上タイム」を活用し、児童の課題に即した内容に取り組みせることにより、学力を向上させることができた。</li> <li>○全教職員で学力・学習状況調査の問題を解き、児童の弱点の把握と指導の重点を明確にすることで、特に国語科・算数科で指導改善に取り組むことができた。</li> <li>○「すこやかタイム」の活用や校庭遊びを推奨することにより、意欲的に体力作りに励む児童が増えた。</li> </ul>

### 5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- ・児童一人一人を大切に、個別最適な学習を目指した授業改善に取り組んだ。朝の時間に「学力向上タイム」を設定し、国語科・算数科を重点的に全校で問題に取り組みせることにより、児童の自己肯定感を高め、学力向上に繋げることができた。これらの取組を保護者にもご理解いただき、保護者アンケートによる結果は、満足度91.1%であった。
- ・思考力・判断力・表現力の向上を目指し「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を基に「松原小スタンダード」を作成し授業で活用した。また、校内研修で互いに授業を見合うことにより、学校全体で指導方法を見直し改善することができた。その結果、各学力調査において、学力に伸びが見られる児童が昨年度よりも増えた。
- ・学校運営協議会において学校経営方針をご理解いただき、授業や児童の様子を見ていただくことにより、様々な学校教育活動への支援と協力を得るための協議ができた。地域では夏季休業中のラジオ体操やお祭り等、コロナ禍以前の行事を再開してきており、参加した児童も多く、学校と地域とが連携して児童を見守り育成していくことができている。

### 6 次年度の改善策

- ・授業の中での効果的なICTの活用について検討し、ICTに頼るのではなく、児童の理解を深めたり、知識を広めたりするためのツールの一つとして、必要に応じて児童に活用させることができるよう、校内研修を企画・実施していく。
- ・全学級がこれまでの人権教育に加え、LGBTQやヤングケアラー等について、年間指導計画をもとに確実に指導できるようにする。
- ・積極的な生徒指導を充実させる。不登校やいじめ、問題行動等には全教職員がアンテナを高く張り、早期に発見・解決し、児童が安心して学校生活を送れるようにする。
- ・栄中学校区の幼保小中を一貫した教育を推進し、幼保との情報交換・情報共有、中学校と連携した乗り入れ授業やキャリア教育の充実、さらに地域との連携を深めていく。